

第7回鹿児島市地域力再生検討委員会 会議概要

日 時：平成20年11月26日（水）15：00～17：00

場 所：鹿児島市役所 東別館9階 特別中会議室

出席者：市民部長、市民参画推進課長、地域振興係

鹿児島市地域力再生検討委員会委員 12人(城本委員・柳委員欠席)

1 開 会

2 協 議

「最終とりまとめ」について

3 その他

今後の日程等について

4 閉 会

会 長

- ・これから第7回鹿児島市地域力再生検討委員会を始めさせていただきます。
- ・本日は、城本委員、柳委員については、所用のため欠席届が出ている。また、山下委員は、他の会議出席のため若干遅れるとの連絡がきている。
- ・事務局から、「資料1 第6回検討委員会会議概要」と「中間報告書」を送付させていただいたが、お持ちになられているか。

委 員

- ・はい。と言う声あり。

会 長

- ・中間報告書については、皆様に最終確認をいただき、去る10月27日から市ホームページ及び市政情報コーナーで公開している。
- ・「資料1 第6回検討委員会会議概要」については、修正等はないか。

委員

- ・はい。と言う声あり。

会長

- ・修正がなければ、この内容でホームページに掲載していきたい。
- ・本日の協議は、「最終とりまとめ」についてである。
- ・前回の検討委員会では、最終とりまとめにあたっては、鹿児島市は周辺5町と合併したが、冒頭に「そういうことも踏まえて提案がなされている」というような背景を出したらどうか。また、町内会だけが地域力とは限らないので、他の既存組織や市民活動団体との連携も含めた地域力という方向性も提言に入れたらどうか。」という意見があり、その旨、確認いただいている。
- ・本日は、最終とりまとめに向けて、前回の委員会で確認いただいた中間報告書を基本に、最終的な盛りつけをしていくということをお諮りしたい。言い換えると、「今後に向けて」総括的な意見を賜りたいが、そのような進め方でよろしいか。

委員

- ・はい。と言う声あり。

会長

- ・異議がないようなので、そのように進めさせていただく。
- ・はじめに、「地域主体性の強化」について、今後に向けたより発展的な意見を賜りたい。

河原委員

- ・地域主体性の強化は、地域の主体性を議論するのではなく、地域力を再生するためにはその核となるのは町内会だということが出発点だった。要は、町内会が自主性を高め主体性を強化するにはどうしたらいいかということについて、理念や意義ではなく、もう少し具体的な行動がイメージできるものを考えればよいのか、そこを整理していただきたい。
- ・議論のまとめで、「町内会だけではないというものもあった」と出されても、また議論がかく乱する。
- ・地域主体性の強化、意識改革、これに対する行政の支援を考えるにせよ、まず出発点である、町内会の主体性を強化するためには何が必要か議論を集中すればよいのか、そうでないのか、確認したい。

会 長

- ・意見をいただいたが、関連していかがか。

吉見委員

- ・町内会が核というのは間違いのない現実であり、長期低落傾向にあるのも間違いのない。都市化すればますます加入率や組織率も減るのは確かで、町内会だけの再建計画に力を入れただけではだめであり、もう少し補完的なことも検討し知恵を出さなければ、長期低落は避けられない。
- ・町内会自体に主体性はなく、個々の町内会を構成する個々人の主体性が町内会の主体性になるから、特に意識改革に注視しないといけない。
- ・個々人の主体性確立を強調する方策がないと、町内会の主体性は期待できない。

会 長

- ・二人の委員から意見をいただいたが、関連して、いかがか。

田原委員

- ・中間報告書でほとんどのことはまとめられていると思う。
- ・地域力を再生するためには、町内会の非会員には情報が伝わらないという現実があり、会員、非会員を区別せず、町内会が地域情報を提供する努力は大事だ。
- ・新たな会員の加入を阻害するものがあるとするならば、できるだけ新規加入のハードルを下げるような環境づくりが必要だ。
- ・行政にできることは、市全体に対する地域活動の必要性などの啓発を継続して実施することで、基本的に地域ができることは地域で、地域ができないところを行政に補完してもらい補完の原則に基づいた役割分担が必要である。
- ・地域主体性の強化で、ゆくゆく主体となるのは子供たちであり、いろんな地域活動に参加させるような場を多く提供する必要がある。将来、地域活動の主体となるということを、社会全体が意識して、そういう経験をさせることが必要である。

会 長

- ・永山委員、どうぞ。

永山委員

- ・21ページの下から9行目、地域主体性の強化がまとまるべき方向性を示すべきなのにマイナス面が書いてあり、前向きな文章にしてもいいのではないか。
- ・地域主体性の強化で、何をもち強化していくのかという中では、「地域が主体的に活動

しなければならない「人と人との絆が大事だ」という言葉が入ってよいのではないのか。

会 長

- ・他に、意見はないか。

西村委員

- ・21ページの下から2行目、「地域力を再生するためには、なんと言っても地域代表性を有する町内会の自主性を高め主体性をより強化することが必要である。」ということが、地域の方々にはどう届くのかと思う。
- ・21ページの上から11行目、「町内会は、行政の末端組織ではなく、」は、我々は決して行政の末端組織として動いているわけではなく、とにかく町内会の自主性を高めるためにそれぞれ動いているので、少し考えてもらいたい。

会 長

- ・その他、田上委員。

田上委員

- ・20ページ中段、「地域の連帯が、言い換えると地域力であり、その核となるのが既存の住民自治組織である町内会である。」とあるが、やはり主体的に町民が捉えるためには、目的意識を持つことである。
- ・20ページ3行目、防犯・防火、青少年の健全育成、交通安全など、地域の問題や課題を共同で解決しようという目的意識が伝われば、主体性が自ずと芽生え育つと思うので、「目的意識をしっかりと持って、主体性を高めていこう」という文言があればもっといいのではないか。
- ・物事を実施する場合、目的意識を持つということが薄らいでいると感じる。会員個々にいろんな考え方があるから、「こういうために、こんなことをしよう」という目的意識をそれぞれが理解してくれれば、もっと主体的に動くし、行事も盛り上がるはずだと思いつているが、いっこうに盛り上がらない面も出てきている。

会 長

- ・ありがとうございました。

吉見委員

- ・田上委員、目的意識を持つために、しかるべき判断材料の情報はしっかりと届いていると思うか。

田上委員

- ・行事を進める時に「趣旨、目的は省く」と言って、具体的な日時や場所や進行計画などだけ説明している現状がある。「目的が浸透しない限り、行事の主体性は生まれない」ということで、まず、趣旨、目的を徹底させるようすすめているが浸透させることは難しい。

会 長

- ・岡本委員、どうぞ。

岡本委員

- ・行事に目的は当然あり、そういうことが前提にあって人集めに努力しなければいけない。
「目的はこういうことです」ということが理解されると参加者数も増える。
- ・町内会によっては「100%加入しなければいけない」ところや「任意団体だからいい」というところもある。また、町内会長の任期が1、2年のところは、余計なことをすると後の引き受け手がいないという実情があり、なかなか活動が進まない。
- ・目的を持って「こういうことをしよう」と総会等で決め、引き継いでいくところはうまくいくが、「次の役員が難儀するから、余計なことはしない」と消極的なところは、輪番制でいくしかなく、まったく前に進まない。
- ・地域づくりには、町内会だけではなくて、校区公民館や地域公民館という段階があると思う。その中で、都市部と5町の町内会はぜんぜん性格が違うので、一緒に考えるのは問題がある。
- ・町内会の広報紙で「ここの町内会長は1年交代」とか「ここは5年」とか「これが進んでいる」と勉強になる。そういう情報交換をしながら運営しているところは、この報告書を読んでも当たり前のことだと判断する。
- ・時代を担う青少年を育てようと子供たちと話をしても、期待していた子供たちは、将来地域外に出てしまい、地元には残らないということもある。

会 長

- ・河原委員、どうぞ。

河原委員

- ・20ページの地域力再生のためにという部分では、これより前のページで書いたことは全部省き、「再生のために、こうしよう」ということだけでまとめたらどうか。よく分からない人でもここを読めば分かる簡潔な文章にすることが大事だ。
- ・なぜ、町内会の地域代表性と承認されているかといえば、地域の全世帯が加入するとい

う建前があるから、強弱はあるけれども今でもあると思う。

- ・町内会は、全世帯加入が建前になっており、例え、加入率が70%でも、50%でも地域全体を代表しているし、町内会には区域があり、その区域は絶対に重ならないので、すべての町内会をつなぎ合わせたら、行政区域をカバーするという点では町内会は地域全体を代表する組織特性の本質だ。
- ・地域代表性を持つということは、地域のいろんな問題に責任を持つ組織であるということ。例え、50%の加入でも区域に起こる様々な問題について町内会が責任を持っているから、20ページにあるような問題を取り上げるわけで、「何のために」というのは、恐らくそのところがまずあるということを確認することが、地域主体性の強化ではいちばん重要ではないかと思う。
- ・自分たちで決めるべき自分たちのことを、人が決めて押し付けられた時に主体性が揺らぐわけで、役所に頼ったり、下請けになって主体性がなくなるというもある。
- ・地域として主体性を町内会が担うのであれば、加入率とか、役員がどうかではなく、「自分たちの地域に責任を持つということを認識しなさい」と言わなければ趣旨がはっきりしなくなる。
- ・町内会が主体性を持つということは、「役所に頼ってはいけない」「役所が出来ないことはたくさんある」「まずは、町内会しかなく、あなた達だ。それをよく分かっているか」とはっきり言うことだけに絞ったらどうか。

会 長

- ・20ページ以降の三つの柱の部分は前段を受けてきており、こういう書き方になっている。
- ・解説型ではなく要点だけにするのであれば、委員の総意があれば構わないが、言い放しではなく、文言に責任を持たなければいけないと思う。そういうことでお諮りしたい。

会 長

- ・田原委員、どうぞ。

田原委員

- ・その部分を短くするのは賛成で、そうした方が皆にも伝わると思う。
- ・地域主体性の強化では、非会員に意識を持ってもらうための働きかけは必要であり、行政においては市全体に啓発することが必要である。
- ・目的意識を持つということは確かに大事だが、そこが薄らいできているから主体性がなくなってきたということを町内会役員の時に実際経験した。
- ・自分たちの活動一つ一つについて、現役員や次の役員ぐらいは、ゼロベースで議論をす

れば、少なくとも主体性が残っていくと思う。

永山委員

- ・地域主体性の強化をしていくためには、「学習の機会を得ること」とか「目的意識を持って活動する」とか「もう一度地域の課題に目を向ける」など、もっと具体的に前に述べたことを省き整理すると、すっきりすると思う。

事務局

- ・中間報告書については、委員からいただいた意見をもとに事務局で案として提案し、何度か確認をいただき、先日ホームページで公表した。
- ・本日は、中間報告書をベースに、今後に向けて具体的なものを最終的に盛り込んでいくと確認されたと受け止めており、最終報告に向けた意見をいただきたい。

安藤委員

- ・報告書を読んで違和感はない。こういうふうにとまとめられており、私に書けと言われてもつじつまが合わなかったりする。
- ・町内会は、募金や校区の行事、単位とする老人会や清掃などいろいろな活動があるということは、地縁からはじまり人と人との付き合いなど世の中がうまくいっているからだ。
- ・「町内会長は、何もしない」とよく言われるが、地域では小使いで外灯やネコの死骸の片づけまでしている。
- ・中間報告書にはいいことが書いてあり、いかに自分の身につけて実行していくかは、その人にかかっている。

事務局

- ・中間報告書については3章立てとし、第3章に「地域力再生のために」ということで三つの柱でまとめられた。
- ・最終報告書については、第4章「今後に向けて」ということで、具体的に力を入れるポイントや取り組むべき優先順位など、委員会としての提言を最終報告書として取りまとめようと考えている。
- ・本日は、第4章の「今後に向けて」について、発言をいただきたい。

山下委員

- ・町内会の問題の一つはマンネリ化で、毎年、同じことや不必要なことをしている。新しい視点でものを見ると全然違う発想が出てくる。
- ・発想の転換や極端なことをするリーダーがいれば町内会は容易に変わるから、問題にな

るのは、やはりリーダーの意識改革だと思うので、そのために地域や行政が協力していくことが大事だ。

- ・ 社会福祉協議会の会議でも、地域の活性化のためには町内会の加入率が落ちており、地域の再生力が非常に悪いと出ており、地域の組織力自体が全体的に落ちてきているということである。
- ・ 団塊の世代が地域のために、いかに今まで培ってきた力を出せるかが、これからの本当の地域力再生ではないか。そのためには、小、中学生を中心とした若い人たちを育てないと結びつかないと思う。

西村委員

- ・ 町内会の活動をすることで、地域や校区のいろんなことが見えてくるので、若いうちから町内会など、いろんなものに係わっていくことが将来のリーダー育成にもつながっていく。
- ・ 子供たちのあいご会活動や校区内の企業から寄付を募り祭りをするなど、町内会をどう盛り上げていくかということで活動してきた。とにかく、何か行事や活動をしなければ活性化にはつながらない。
- ・ 募金を1軒1軒回るのは班長が大変だということで、各町内会、通り会ごとに金額を決めて集めている。やはり、扶助の関係から言えば、寄付は寄付として真剣に取り上げていきたい。

岡本委員

- ・ 募金の趣旨、目的は善意をいただくということだが、結局は「町内会の分はこれだけだから協力を」となり、集金は面倒だから町内会の予算から出すという、まさに募金ではなくなる。そういう方法に頼らざるを得ない実情は役員だから分かるわけで、一般の市民には全然わからない。
- ・ 鹿児島市は行政と市民が協働していくという姿勢があり、受け皿として町内会は重要な部分であるが、町内会は何のためにあるのか住民が理解しないと、会員、非会員だろうが、そのことについて疑問に思うのではないか。
- ・ 町内会の加入率向上はリーダー養成もだが、組織力を高めて分担して役を引き受けないと、会長だけではだめで、将来的には、考え方を皆さんにアピールし、若い人たちが関心を持たないと地域の再生はない。
- ・ 町内会もそれぞれ抱えている問題があり、それぞれの地域で解決しないと「これが理想です」といっても、2世帯と3000世帯の町内会とは全然違うので一緒に比べられない。
- ・ 中間報告書にはいろんな意見がまとめられており、これでいいと思う。最終的には、結

論が出るので、議論しながらよい方向に行ければいいのではないか。

会 長

- ・本日は、中間報告書の三つの柱それぞれについて、今後に向けて、どう具現化していくか意見をいただくことである。
- ・地域主体性の強化で、長いとか、重なった文言があるということだが、前回の委員会で中間報告のとりまとめの方向性は了解をとっている。
- ・最終報告では、誰が読むかということ踏まえ、読む人に対してアピール度があるように少しすっきり要点をとりまとめる方向でよいか、再度確認させていただく。

委 員

- ・はい。と言う声あり。

会 長

- ・「1 地域主体性の強化」で意見をいただいたが、意見以外のところでいかがか。なければ、一通り三つの柱を通り、最終的にもう一度意見を伺いたい。

田原委員

- ・町内会の役員に対して意識改革をしてもらうような仕掛けが大事で、併せて、役員も交替するので、1 度だけではなく継続していく工夫が必要ではないか。
- ・すべての住民に対する意識啓発も繰り返し行う必要がある。

岡本委員

- ・市では「班長さん集まれ講座」やリーダー育成の研修会も実施しているが、参加する人が少ないと思う。
- ・町内会もそれぞれ抱えている問題があり、「こうした方がいい」という理想論はあるが、自分の町内会に当てはめると違うというのがあるので、アドバイスしてくれるような部署があってもいい。
- ・住民の代表として町内会が位置付けられるのならば、行政もそれぞれの町内会の内情を把握しないと、町内会はどこも一緒だと思ってもらっても困る。
- ・町内会活動に参加しない人をどうするかは、やはり地域がコミュニケーションをとらないといけない。
- ・市もいろんな補助金を出しているが、恩恵にあずからない組織がたくさんあり、集会所を造れと言われても、土地、建物、維持管理の問題などがあると、「このままでいい」ということになるので、行政の土地を使用させるなどの援助ができる体制があってもいいの

ではないか。

会 長

- ・その他、意見はないか。

山下委員

- ・22 ページの上から12行目の「地域住民の間で伝統的組織である町内会についての認識の共有と継承が適切になされてこなかったことが、住民の町内会離れにつながっていると言える。」という部分と、15行目の「住民自治組織でありながら、地域代表性の正当性が問われていることも事実である。」という表現は非常に難しく分かりにくい。もう少し分かりやすく書くか、逆に、この部分を省いて分かりやすくした方がいい。

事務局

- ・中間報告をとりまとめる際にいただく意見ではなかろうかと思うが、中間報告書は各委員にお諮りし公表している。

安藤委員

- ・文言のことは言わなくてもいい。

河原委員

- ・中間報告書はホームページに掲載し公表したが、最終報告書では第4章だけではなく、今出された意見についても、もう一度文章を精査されると理解していいか。

安藤委員

- ・修正するのであれば、どのように変えるのか自分で書いてこないか、こういうところで意見だけ言ってもどうかと思う。

岡本委員

- ・地域で後継者がいなくなり、空き家を壊しマンションを建てると違う地域から転入してくるが、マンション管理組合ができると町内会とは接点を持たなくなる。
- ・「結い」という言葉があるが、農作業など人手がない時にお互いが理解してやっていくというふうになればいいが、マンションができると全世帯が入っていないと言われても仕方がなく、昔の集落的なものとは形態が違ってきているという実情がある。
- ・行政とのタイアップと言えば、やはり町内会になってしまう。町内会は行政の下請けではないというのは当然だが、いろんなことでお互い理解を深めタイアップしていかない

といけない。

西村委員

- ・加入率を高めるためには、例えば、「市民のひろばは町内会を通じないと配布してもらえない」というような強硬な方法をとらないとなかなか町内会に入らない。
- ・行政と町内会がタイアップするのであれば、ある程度町内会という存在意義をアピールするためにも、会長をただの世話役ではなく、身分の保全まではいかないまでも町内会長の位置付けをしないとといけない。

河原委員

- ・今の意見は、20ページの最後の4行と大きく矛盾する。

西村委員

- ・加入率を高めるためにはいろいろな方法を考えなければ、「啓発、啓発」と言うが、市も町内会も一生懸命やっており、これ以上の啓発はどういうのがあるのかと思う。

河原委員

- ・第4章の具体的な提案になるようなものを抽出せよということだが、具体的な提案になるような議論はあまりしていない、合意が得られていないという実情が明らかである。
- ・20ページの最後の4行では、加入率向上については町内会が自らの問題として捉えて、自ら勧誘を行い、主体的に取組みなさいということで、加入を強制するようなことは書いていない。
- ・啓発は、市役所の車に加入啓発ステッカーを張るなど精一杯されていると思う。いちばん効果があるのは、未加入者への声かけや町内会長による転入者への声かけだと思うが、現実には行われていないので、合意を得て提言するならば、「啓発はされているが、最後の決め手である地域での声かけをすべき」ということになる。
- ・マンションと町内会の関係で、従来から町内会長が悩んできたと思うが、地域内にマンションが出来たら「マンション独自で町内会が結成されていていい」と、ゆったり構えた方が町内会長の気は楽になるのではないか。
- ・一戸建てと集合住宅とは、抱える地域の問題も違うので、寛大に構えた方が町内会の加入を高めるとか、町内会を強化するためには、むしろいい場合がある。

井前委員

- ・非会員には「毅然とした態度で臨むべき」という意見があったが、22ページの「町内会会員に限定した活動から、会員、非会員の区別なく地域住民全員に参加を促すような

行事や活動へと大きく転換するなど、」という、毅然とした態度ではなく、ごみステーションや防犯灯の問題、また、「回覧板を回しましょう」というような相談を持ちかけてもいいのではないか。

- ・防犯パトロールなど、会員と非会員を区別したパトロールは実際行われないので、この辺を強調した方がいい。

岡本委員

- ・町内会に加入する、しないは、コミュニケーションがとれていないと入らない。衛生組織連合会もごみステーションの美化推進ということで町内会にお願いしているが、未加入者は分からない。そういう場合でも、コミュニケーションがとれていけばうまくいく。
- ・マンションも大手になると、系列すべてのマンションが地元町内会にかかわれば問題はないが、「ここだけを町内会に」と言ってもなかなか難しい。個人の小さなマンションは、割と地域の町内会に入っているところもあり、地域による問題は、そこでしか解決できない。

田原委員

- ・啓発活動が十分だというのは、地域が活性化して再生している場合に言えるわけで、効果が表れなければやり方がおかしいので、その方法を改めるべきだと思う。
- ・これからのリーダーは、仕事をリタイアした体力もノウハウもある、地域のために取り組もうという人たちが核になると思うので、市の人的なエネルギーとか資金などでバックアップし、モデル地区を設け成功事例を作るところから展開していくことも一つの方策だ。

永山委員

- ・私の町内会はとても大きく、運営しやすい町内会のあり方とはどんなものだろうと考える。会のあり方や組織体制の運営の仕方もあるが、大きすぎて維持ができていないので、例えば、コーディネーターではないが行政に指導してくれる人はいないのかと思う。
- ・小さくても運営がうまくいっているところもあると思うが、地域の活性化となった場合、どうしたらいいかという悩みはあると思う。地域が一人一役を担えるぐらいの町内会の組織があればよりいいのではないか。
- ・町内会が大きすぎても悩みがあるということ認識しながら、町内会活動を地縁的なものとして底上げしていくにはどうしたらいいのか考えなければいけない。

岡本委員

- ・小さな町内会が連合体を組織して、いろんなことをやろうというのもあり、例えば、八

幡校区振興会や谷山地域にも連合体がある。以前、紫原にもあったが、目的がなくなると必要でなくなるというのがあり、地域性はどうしてもでてくる。

永山委員

- ・組織が大きすぎて加入が進められない現状や運営の偏りなど、地域性で片付けられないものがあり、そこをどうしていくかが課題である。

岡本委員

- ・規模の小さな町内会にとっては、大きな町内会はうらやましいと思うが、200世帯ぐらいが妥当ではないかと思う。
- ・高齢化社会を迎えると、リーダーのなり手がいなくなるという時代が見えているという現実も起こってきている。

安藤委員

- ・団塊の世代など、60歳、70歳代はたくさんいるが、そういう人達の中からリーダーとなる人材を発掘する、現役のリーダーの力量が問われる時代だ。
- ・町内会は任意団体ということで、加入にあたって自分の損得を考える人が非常に多い。
- ・一昔前までは、自分から町内会に加入したいというのが当たり前であったが、今では加入を勧めても、「何のメリットがあるのか」という時代になってきた。これは、指導者の忍耐力や説得力が足りないからだと思う。
- ・人と人との交わりには、いろんな行事をしないといけないということを第4章に盛り込んだらどうか。

山下委員

- ・日本で人口が一番多い世代は、59歳、60歳、61歳だから、この人たちを活用して、地域毎にパターンをつくりモデル化して底上げしないと全体の底上げは出来ない。

会 長

- ・中村委員、どうぞ。

中村委員

- ・いろんな行事に参加し顔見知りになると、町内会に入りやすくなるので、そういう活動を広げていきたい。
- ・リーダーは一人ではなく、各方面でその時々に応じた、たくさんのリーダーを育て発掘することがいいと思う。

- ・地域主体性の強化では、いかに組織がしっかりできているかということが大事ではないか。

河原委員

- ・地縁だけで町内会に加入していたのはかつての話で、「入る必要がある」と思わせるような活動を町内会がしていないから損得を考えて加入しないので、やはり「地縁だけでは、もう入らない」ということを出発点に考えるべきだ。

西村委員

- ・「町内会の魅力」というが、そう町内会に魅力は感じない。ただ、自分の住んでいる地域をどうにかしようという意識、義務だけがそこにはある。

河原委員

- ・損得を考えて入らない人は無責任な人ばかりではなく、義務もあるし、「子供のことを考えたら」とかあるが、それでも最終的に入らないのは「義務を被る」とか「自分の不便を我慢してまで連携する」ことにプラスを感じていないからだ。

西村委員

- ・私があいご会組織に入って30年続けて来れたのは、やはり、子供がいたからで、子供の後を親がついていくというのがあったからだ。

田原委員

- ・町内会として経済的に自立し、ボーナスをもらえるような運営をするリーダーが出てくれば、「会費を払わなくていいのなら、町内会に入っておこう」となると思うので、それぐらいの発想で変えないと活性化しない。それには、コミュニティビジネスとか、いろんな方法を考える必要があると思う。

岡本委員

- ・仮に、20世帯の町内会で会費が月500円であれば、年間12万円の収入だが、町内会も財政力がないと、うまくやり繰りができず先には進まないという現実がある。

河原委員

- ・12万円しか収入がなければその範囲内で活動すればいいし、足りなければお互いが出し合えばいい。

岡本委員

- ・活動が先に進まないということ。

河原委員

- ・それぞれ身の丈にあった規模での町内会活動をすべきだ。

田上委員

- ・個々人の認識のずれが、意識改革が出来なくなっている要因の一つで、例えば、子供たちの行事をする場合、非会員の子供をどう取り扱うかで、ばったり止まってしまう現実があるので、「町内会に入りましょう」と勧誘をして、その親の認識を変えない限り解決する手はない。

河原委員

- ・具体的な問題に困って、活動が進まないということはいろいろあると思うが、そういう場合、アドバイザー的なものを市役所に設置することはできないのか。
- ・会員と非会員の子供の取り扱いにおいては、非会員の子供が参加してくれることが町内会にとってはありがたいことなので、参加する子供全員から一律に参加費を集めればいい。

田上委員

- ・町内会の行事は年間を通して予算化しており、執行していく上で非会員の子供たちをどう取り扱うかが非常にネックになる。

永山委員

- ・地域で子供、大人、高齢者とを遮断した大きな要因は、科学の発達だと思う。携帯電話など遠くの人と話しができたり、地域のイベントには参加しないのに遠くのイベントには参加するというようなこともあるなど、どうしてもできない状況に来ている。
- ・「人と人がつながっていく」「人は一人では生きていけない」「人は人の中でしか育たない」という中で考えれば、「地縁組織」「生活」「ふるさと」という面では、やはり町内会がいちばんベターな組織だとした方がいいのではないかな。
- ・「いざという時には、町内会という地縁組織が必要だ」というのを第4章では打ち出し、それに対する方策をどうするのかというところになればいいのではないかな。

吉見委員

- ・「結い」は昔からある自治で、屋久島で10年間経験したが、地域の下払いの際、欠席す

ると当時4000円の罰金で、結いを維持するためのルールが4000円であった。それを飲み食いに使うのも結いの歴史でもあるが、今の時代は義務も出来ないし、結いも維持できない現状である。

- ・町内会存続が至上命題ではなく、「参加してよかった」「参加してもメリットがある」という参画することでどういうインセンティブがあるのか、もう少し具体的な提案を考えないといけない。
- ・行政サービスは、これからどんどん減らさざるを得ない状況で、自衛手段として町内会組織をうまく活用できるか知恵を出したい。

会 長

- ・中間報告書はホームページ等で情報開示しているが、これに基づいて、最終的なとりまとめを年度内でやらなければいけない。
- ・最終的には中間報告書をたたき台に、皆様からいただいた意見を事務局で再度整理し、次の最終の検討委員会に諮れるよう各委員に送付させていただく。
- ・地域主体性の強化では、従来のシステムと新しいシステムとの異なるところ、どこが再生のためには大事なのか要点をうたいあげること。また、町内会組織の柔軟性、組織力やリーダーの問題、都市型の管理組合というマンション等の問題等、そういう組織全体に対して仕分けした対応を指向性として持つべきであるということ。
- ・20ページの下4行は、目的意識を持って主体性を高めるのであれば、むしろ地域主体性の強化の頭に来るべきで、ここを受けて、具体的にどうするか次回のとりまとめに持っていく方が委員も整理しやすいのではないかとということ。
- ・「意識改革」と「啓発」という言葉が各委員から出たが、手法、効果が十分なのか、具体的には、町内会役員に対する意識改革の問題と市民全体に対する啓発の更なる徹底のあり方がどう可能性があるのかということ。
- ・リーダー等の研修会の持ち方で、機会を多様化するのではなく質を充実させていくというアドバイザー的なものも必要なのではないかとということ。
- ・町内会に参加しない人達とのコミュニケーションの取り方をもっと研究すべきではないかとということ。
- ・23ページ以降の行政の支援で、運営しやすい町内会のあり方を検討する。つまり、適正規模の町内会の運営があるのか、ないのか。分割する方法もあるし、小さな町内会に対しては連結するとか、同じ行事を行うにしても効果のある取り組みの方法も検討できるのではないかとということ。
- ・「町内会の存続」から「参画することに喜びを」という手立てを持つことは、非常に大事であること。
- ・組織に加入するメリット、デメリットを声としては聞いているが、それをどういうふう

に現実的な問題と理想的な問題をうまく結びつけていくかという課題を突きつけられているということ。

- ・町内会とか自治会とか組織があるのではなくて、マネージメント（運営）が極めて大事で、その研究がいちばん足りないのではないか。現状の問題は認識しているが、どうマネージメントするかという研修会はできないのか。
- ・組織運営は、リーダーの話ではなくマネージメントだと思うので、SWOT分析という、自分の町内会組織の強み（S）、弱み（W）は何かという内部の問題と機会（O）と脅威（T）の外部環境について分析、評価することが必要である。
- ・スキルマネージメントの中にリーダーの質と量の問題が出てくるわけで、リーダーというトップは一つだと考えずに、それをサポートするリーダーがいるというサポートシステムを考えていくべきである。
- ・マネージメント（運営）しやすい町内会のあり方の検討、適正規模の運営のあり方も考えていくべきではないか。
- ・最終回に向けて本日の意見を精査し、意見があれば事務局、もしくは私を通じて意見をいただいて、事務局で文章化し、再度各委員にお諮りした後、最終報告書案として次回の委員会で最終決定したいが、そういう進め方でよろしいか。

委員

- ・はい。という声あり。

会長

- ・そういう方向で次回、少しでも具体性が出るような形に持っていきたい。
- ・その他に入りたい。事務局、日程を含めてどうぞ。

事務局

- ・本日の意見等を精査し、中間報告書でとりまとめた部分にも触れたところもあるので、そういうことも十分踏まえ再度精査したい。それをもって、年明けぐらいに、最終報告書素案という形で皆様方に一度お送りし、それに対するご意見をいただき、次回の最終回には一段レベルアップした最終報告書（案）という形でお目通しいただき、議論をいただきたい。
- ・最終回は、当初スケジュールでは2月の上旬頃を予定しているが、皆様方のご都合等も勘案しながら、再度日程調整させていただきたい。

会長

- ・皆様方には多くの意見をいただいたが、この意見が地域力再生のために役立つことを期

待する。

- ・ 以上で、第7回鹿児島市地域力再生検討委員会を終了させていただく。
長時間ご苦労さまでした。